

F-33 家政学において急ぎ開発を要する分野 — 家政学原論研究Ⅱ —
十文字学園女子短大 原田 一

目的 家政学を、生活科学論者のように学際的領域に解消せず、一個独立の科学として確立するためには、それにふさわしい体系を樹立することが必要である。現在の家政学において特に遅れており、急ぎ開発を要する分野は何であるかを追究する。

方法 先進の諸学の体系を模範として、それと比較して未開発の分野を発見する。

結果 1. 家政哲学 法学・経済学・教育学等には法哲学・経済哲学・教育哲学等があるから、家政学にも家政哲学が必要である。従来それは家政学原論に含ませていたが、哲学は根本的な問題を論ずるので、容易に一致した見解を得ることが困難であった。そこで原論では、常識的にも受入れられる比較的無理のない哲学的立場をとって論ずることとし、立ち入った論議は家政哲学に譲りたい。哲学は認識論・存在論・価値論から成るので、家政哲学も、家政学方法論・家政本質論・家政理念論に分かれる。立場には、新カント派・現象学・プラグマチズム・マルクス主義・生の哲学・実存主義・分析哲学等があり得る。また料理の哲学・洗濯の哲学等も考え得る。

2. 歴史的研究 政治史・経済史等に相当する家政史と、政治学史・経済学史等に相当する家政学史と、社会思想史等に相当する家政思想史の三方面が必要である。また各民族の家庭生活を比較研究する比較家政学または家政地理学が必要である。

3 家庭政策学 経済政策学・社会政策学に相当する家庭政策学が必要である。

4 その他 老人学・手芸論、原論の一部としての人類生態学的研究等がある。

結語 研究者は上記各方面に進出すべく、大学は早く授業科目を設くべきである。